

令和6年度 事業報告書

I はじめに

令和6年度の我が国の経済は、33年ぶりとなる春季労使交渉における高い賃上げ率、100兆円を超える企業の設備投資など、前向きな動きが随所にみられる一方で、名目賃金が物価上昇に追いつかず、経済の過半を占める個人消費が力強さを欠く状態が続きました。

日本経済の緩やかな回復基調を支えているのは、好調さが継続している企業部門です。その背景の一つには、輸出関連企業やインバウンド関連業種における円安の影響もあります。一方で、円安は輸入物価の上昇を通じて国内物価を押し上げ、コストプッシュ型の物価上昇につながるリスクを内包するものであり、これは、賃金上昇が物価に追いついていけない中で、消費者の購買力をさらに損ないかねない恐れがあると懸念されています。

個人消費状況については、物価高が消費に影響を与えた一方で、所得環境の改善が進行しているという複雑な状況が見られました。特にエネルギーや食料品などの価格上昇が消費者心理に影響を与え、個人消費は一部で減少傾向に転じました。

雇用情勢については、少子高齢化による労働供給の制約が続く中、求人倍率は高水準を維持し、雇用改善の動きが見られました。特に女性や高齢者の労働参加が進展し、転職活動も活発化しました。

高齢就業者については、2013年以降の継続雇用確保策の強化もあり、就業者数の増加を支えてきました。「年金の壁」を超えて働くことによる生涯可処分所得の増加というメリットを広く周知するとともに、各種制度については就業意欲をより後押しする方向へと見直していくことが急務とされました。

公益社団法人として14年目を迎えた中野区シルバー人材センター（以下「センター」という）は、事業の基軸である請負事業と、平成29年度から開始したシルバー派遣事業に取り組みました。ここ数年、感染症の影響もあり契約実績は伸び悩みましたが、その状況もほぼ回復しました。請負事業については、公共のみ増加となり、その他の民間・家庭・自主事業は契約金額が減少となりましたが、結果的に令和5年度の請負事業実績を上回ることができました。

シルバー派遣事業については8年目を迎えました。令和6年度は保育補助業務19件、飲食店での調理補助業務1件、スーパーでのレジ業務1件の合計21件の契約でスタートし、最終的にはグループホームでの調理補助業務や、継続契約を中心とした派遣事業において貴重な単発契約のシルバーパス書類受付業務含む27件の契約となり、昨年度を上回る実績をあげることができました。

請負事業の契約金額は7億294万円余で、昨年度比5.2%増となりました。一方、シルバー派遣事業の契約金額は3千849万円余で、昨年度比8.9%増となりました。この結果、請負事業とシルバー派遣事業の合計契約金額は7億4千144万円余で、昨年度比5.3%増となり、令和6年度事業計画の目標額6億9千万円を大きく上回る実績をあげることができました。これは、猛暑や厳寒においても就業を継続していただきました会員皆様のご協力・ご尽力によるものと改めて感謝申し上げます。

受託件数〔請負事業のみ〕につきましては、昨年度より673件少ない11,029件で5.8%減

となり、就業状況〔請負事業のみ〕については 1,431 人の会員に対し 1,051 人（延べ 37,343 人）が就業し、就業率は 73.4%になりました。

会員の入退会については、年間入会者数は 202 人で昨年度に比べ 2 人減、年間退会者数は 216 人で昨年度より 50 人増となり、結果的に令和 6 年度末会員数は 1,431 人で前年度比 14 人減となりました。なお、退会の主な理由は会費未納、病気及びその他で就職によるものでした。

センターとしては、組織の根幹ともいえる会員が年々減少傾向にあることから、会員の増強及び受注拡大を目的に広告効果等を精査した上で、昨年度に引き続きバスラッピング広告や区内 18 郵便局でのポスター掲示、チラシの新聞折込み等、さらにセンターを多くの方々に認知していただくため P R を実施しました。他にも、センターに未入会の方々を対象とした「これからシルバー応援フェスタ」への参加、クリーンキャンペーンの実施など P R 及び地域貢献に努めました。

例年、地域への文化的貢献及びセンターの P R を目的とした「シルバーまつり」（武蔵野音楽大学の協力によるクラシックコンサート）を開催し、室内楽の心地よい調べに来場者から「若い演奏家の生演奏が素晴らしかったです」「心が洗われたような気持ちになりました」「バラエティに富んだ選曲で昔を思い出しました」など感謝の言葉をいただきました。

また、中野区主催「なかのエコフェア 2024」に参加し、センターの P R に努めました。感染症を機に減少傾向にある会員数を一人でも多く増やすため、イベント等への参加による現地での P R 活動に積極的に努めました。

重点事業である家事援助・子育て支援・福祉サービス事業については、引き続き区内をブロックに分け、会員コーディネーターを配置することで、地域の多様なニーズにきめ細かく対応するよう努めました。

また、平成 29 年 4 月より本格実施している「介護予防・生活支援サービス事業」は 8 年目を迎え、年間の合計契約実績は 16 件でした。サービス利用者の都合により、契約終了や就業の一時中断などもあり、件数は少ないながらも要支援対象に該当する区民の皆様のお役に立つことができました。

家事援助・子育て支援・福祉サービス事業の全体的な実績としては、昨年度同様に規模の大きい契約がお客様都合により終了となることが多く、昨年度比で 8.1%減の 3 千 617 万円余の実績となりました。新規受注や問い合わせには事務局及び会員コーディネーターで迅速に対応していますが、ある程度まとまった仕事の契約獲得には至りませんでした。ただ、お客様からのご依頼に対しては規模の大小にかかわらず、一件一件を大切に、丁寧な対応に努めました。

一方、単発的な作業を担う「暮らしのサポート隊」は、アパート等の空き部屋清掃のほか、植木の水遣り・荷物整理・片付けや粗大ゴミの搬出など多岐にわたる様々な注文に対して、迅速な対応と丁寧な仕事に努めました。また、令和 6 年度は地域イベント等の補助業務を複数件、受注することができ地域貢献につながりました。その結果、昨年度比で 1.0%増の 1 千 12 万円余の実績をあげることができました。

センターとして法令遵守の観点から、令和 6 年 11 月 1 日に施行されました「特定受託事業者に係る取引の適正化等に関する法律」（フリーランス・事業者間取引適正化等法）の要請に基づき、速やかに会員の「就業規約」を改正し適正に対応しました。これにより、今後、新規契約の開始時や年度替わりに伴う契約更新時に、就業予定会員に対し事前に仕事の内容・配分金額・配分金支払期日等が記載された「会員就業条件明示書」をお渡しします。

Ⅱ 事業推進の概要

令和 6 年度においては引き続き材料・物価の高騰など、センターを取り巻く環境は依然として厳しい状況でしたが、社会参加の意欲ある健康な高齢者に対し、地域社会と連携を保ちながら、その希望・知識及び経験に応じた就業ならびに、社会奉仕等の活動機会を通じ活力ある地域社会づくりに寄与するため、次の基本方針のもと事業を実施しました。

- (1) 会員の入会促進、就業を通じた社会参加と生きがいづくりの推進
- (2) 会員に適した就業先の開拓・確保
- (3) 会員の就業についての知識・技能向上のための講習等の実施
- (4) 法令等遵守した適正就業の維持
- (5) 安全就業の啓発・指導・研修等を徹底し、会員の健康維持・増進を支援
- (6) 社会奉仕活動の推進

Ⅲ 事業実施報告

高齢者の豊かな経験と知識を生かした質の高いサービスの提供に努めるとともに、区民の暮らしに身近な就業を通じて地域社会に貢献するなど、「自主・自立」「共働・共助」の理念に基づき、次の事業を実施しました。

1 事業実績〔定款第 4 条 1 号事業〕

	事業実績	就業延人員	受託件数
請負事業	702,946,805 円	137,715 人日	11,029 件
シルバー派遣事業	38,497,432 円	7,801 人日	279 件
合計	741,444,237 円	145,516 人日	11,308 件

2 広報・宣伝活動の推進〔定款第 4 条 1 号事業〕

(1) 会員の動態について

- ① 令和 6 年度末会員数 1,431 人
- ② 入退会者数 入会者 202 人 / 退会者 216 人

(2) 事業の広報・宣伝活動の推進

◇機関誌を発行し、センターの活動を幅広く掲載し、会員及び関係方面に配布して事業の P R に努めました。

機関誌「シルバーなかの」発行（年 4 回）	・ 第 159 号（4 月 30 日号） ・ 第 160 号（7 月 31 日号） ・ 第 161 号（10 月 31 日号） ・ 第 162 号（1 月 15 日号）
-----------------------	---

機関誌「シルバー速報」発行（年 8 回）	・第 395 号（5 月 31 日号） ・第 396 号（6 月 30 日号） ・第 397 号（8 月 31 日号） ・第 398 号（9 月 30 日号） ・第 399 号（11 月 30 日号） ・第 400 号（12 月 31 日号） ・第 401 号（2 月 29 日号） ・第 402 号（3 月 31 日号）
----------------------	--

◇広報・宣伝活動

分類	期間	活動内容
ホームページの活用	年間	センターのホームページを有効に活用して、幅広い世代の方々に事業内容等の情報を発信し、会員の加入促進及び受注の拡大を図りました。また、ホームページ内にラッピングバスや会員の笑顔の画像などを掲載し、センターへの興味・関心を高めることを目的にイメージアップに努めました。
P R 活動 (チラシ配布等)	令和 7 年 1 月~3 月	センター P R チラシ 2 種類の各戸配布を、77 名の会員の協力により実施しました。会員増強及び就業開拓を目的として合計 68,902 枚を配布しセンター P R に努めました。
	令和 6 年 11 月	会員増強を目的として、弥生区民活動センターにおいて出張形式による入会登録説明会を開催しました。事前に周辺地域を対象に、出張入会登録説明会の開催案内チラシ 14,150 枚の折込広告及びお知らせ板 98 か所へのポスター掲示により周知しました。当日は 5 名の参加者にセンター概要や、会員として働く意義を説明しセンター会員の増強に努めました。
	年間	計 23 回、新聞折込み広告を実施しセンター P R を積極的に行いました。折込みチラシを見てセンターに連絡をいただくことが多く、とても有効な P R 媒体となっています。
	令和 6 年 8 月 令和 7 年 1 月	東京しごと財団の経費により、会員募集チラシを区内に 30,000 枚、新聞折込みすることでセンター P R 及び会員増強に努めました。
	令和 6 年 12 月	襖・障子はりの受注獲得のため、暮らしのサポート隊のチラシと一緒に表具の P R チラシ 600 枚を配布しました。
	年間	暮らしのサポート隊に特化したチラシをサポート隊の新人会員の協力により約 16,500 枚配布し、センター P R 及び就業開拓に努めました。
	年間	就業や各種会議を通じて事業の周知を図り、会員自身の口コミ等による P R 活動により受注の拡大、会員の入会促進に努めました。

P R 活動 (講習会等)	令和 6 年 4 月・8 月・ 11 月・12 月・ 令和 7 年 1 月	区民を対象に「パソコン・スマホ講習会（無料）」を 年間で 26 回開催し、センター事業の P R に努めました。
P R 活動 (イベント)	令和 6 年 6 月	令和 6 年 5 月に開庁した中野区役所新庁舎にて開催 された「中野健幸どまんなか市」に参加しました。 当日はセンターの P R グッズやチラシ等により、会員 増強及び就業開拓を目的として P R に努めました。
	令和 6 年 7 月	区役所新庁舎 1 階ロビー「ナカノのナカニワ」にて 会員増強及び就業開拓を目的として P R 活動を行い ました。当日は、お仕事相談会としてブースを設け、 複数の区民の方にお立ち寄りいただきました。
	令和 6 年 10 月	「第 12 回シルバーまつり」を開催しセンターの P R に努めました。当日は、武蔵野音楽大学の卒業生によ り「秋麗の室内楽の調べ」と題して、素晴らしい演奏 と声楽が奏でられ、来場者 411 名から盛大な拍手を いただきました。また、今回も来場者へのアンケート 調査を実施（回収率 78%）しました。「いつも楽し みにしています」「選曲がよかった」「ぜひ続けてく ださい」など、嬉しい感想をいただきました。
	令和 6 年 10 月	東京しごと財団と第 3 ブロックシルバー人材セン ターの共催イベント「これからシルバー応援フェス タ」を BIZ 新宿（新宿区立産業会館）で開催しまし た。当日は 54 名の非会員の方々が来場し新規会員の 獲得及びセンターの P R に努めました。
	令和 6 年 11 月	中野区主催の「なかのエコフェア 2024」に参加しま した。区の発表でイベント全体の来場者数は 3,740 名で、センターのテントにも多くの親子連れに来てい ただき、子ども向けの景品が当たる輪投げゲーム等 を通じて、センター事業の P R に努めました。
	令和 7 年 3 月	「東京マラソンランナー応援イベント 2025」の会場 にて、来場者案内のボランティア活動に 9 名の会員 が参加し、センター P R に努めました。
P R 活動 (ポスター・広告等 の掲載)	年間	「なかの区報」（計 22 回）にセンターの会員募集広 告を掲載し、新規会員の獲得に努めました。
	令和 6 年 7 月 令和 7 年 2 月	中野区友愛クラブ連合会の会報に、センターの広告を 掲載し P R に努めました。
	令和 6 年 4 月	中野区教育振興会の会報(4 月発行)に、会員募集広告 を掲載し P R に努めました。
	年間	郵便局の窓口用封筒にセンターの広告を掲載し P R に努めました。
	年間	高齢者の方々の利用が多い中野区内 18 の郵便局に、 B2 ポスターを各所に 2 枚ずつ（本局のみ 10 枚）掲 示し P R に努めました。
	年間	中野区の発行する「生涯学習・スポーツガイドブック 2024」に記事（講習会、各種講座）を掲載しセンター 事業の P R に努めました。

P R活動 (ポスター・広告等 の掲載)	令和6年4月 ～ 令和6年8月	中野区役所2階ロビーに設置されている自治体情報案内図(シティナビタ)にセンター広告を掲載しセンター事業のP Rに努めました。
	年間	関東バス2台・京王バス1台の計3台に、チラシやポスターと統一したセンターP R用のデザインをラッピングし、区内各所を走行することにより各種P Rとの相乗効果を期待したP Rに努めました。 ただ、関東バス2台のうち1台は、車両の老朽化のため令和6年9月をもって廃車となりました。そのため10月以降は計2台のバスが走行しています。
	年間	高円寺駅から白鷺地区まで運行する「地域交通サービス実証運行バス」の後方扉にラッピングを施し、車内にはポスター掲示及びセンターチラシの設置など、車両一台をセンター広告で独占した状態で運行することで、センターのP Rに努めました。
	令和6年4月 ～ 令和6年9月	鷺宮・野方・江古田・東部・南中野、計5か所の地域事務所の有料広告スペースに大判のポスターを掲示し、センターP R及び会員の入会促進に努めました。
	年間	昨年度、センターとして初めてリスティング広告(インターネット広告で、検索結果に連動して表示される広告)を導入し、会員獲得に効果があると評価できたことから、令和6年度も継続し、デジタル的な部分においても積極的にP Rに努めました。

3 しごとの開拓と提供〔定款第4条1号事業〕

(1) 就業確保の取組み

- ① 一般家庭、官公庁に対し、センター事業のP R活動を行い就業機会の開拓を行いました。
- ② センターの受託可能な仕事を、わかりやすくホームページ等で情報提供するとともに、一般家庭を中心にチラシやリーフレット等を配布し受注の開拓に努めました。
- ③ 東京しごと財団が民間事業者に就業開拓業務を委託し、「トライアル就業」という就業機会を創出しました。お試しでの就業の後、正式な就業につなげるという仕組みです。センターは情報提供のあった案件については、積極的に就業開拓に努めました。
- ④ 「シルバー速報」「シルバーなかの」に仕事情報を掲載するとともに、ホームページの活用等により仕事情報の共有化と就業の促進を図りました。
- ⑤ 就業に関する情報収集のため会員懇談会を開催しました。(14班×2回)
 - ◇第1回 令和6年6月5日～6月28日(197名出席)
 - ◇第2回 令和6年11月11日～11月29日(202名出席)

(2) 家庭・子育て事業の推進

- ① 家事援助・子育て支援・福祉サービス事業推進のため、地域の関係機関・団体と連携を図り、それぞれのニーズに沿ったきめ細かなサービスの提供に努めました。
- ② 中野区内をブロックに分け、それぞれに会員コーディネーターを配置し、迅速で丁寧な受注対応を目指しました。

- ③ 子育て支援サービスでは、既存の注文もお子様の成長とともに契約終了となるものや、問い合わせのみで受注につながらないことが多く、受注件数及び実績は減少しましたが、お客様満足度の高いサービスとなっています。
- ④ 『やさしさと笑顔で暮らしのお手伝い』のスローガンのもとに、センターらしいきめ細やかなサービスの提供に努めました。また、就業会員に「就業ノート」を配付し、お客様とのコミュニケーション等に活用することにより、仕事を円滑に進めることができました。
- ⑤ 令和7年3月に「家事援助就業会員必修研修」を開催し、2日間で57名の会員が参加しました。この研修は、就業において厳守すべき事項を会員に対し周知・徹底を図るとともに、日頃、個々に就業している会員が仲間意識や一体感を持つことで、就業への活力や励みとなることを目的として開催しています。
- ⑥ 例年、良質なサービスを提供できることを目的に実施している、家事援助・福祉サービスに関する研修として、中野区社会福祉協議会主催の高齢者支援サービス担い手養成講座に家事援助・シルバーサポート就業会員が参加しました。
- ⑦ 介護保険制度の改正に伴い、平成29年4月から「介護予防・生活支援サービス事業」が本格実施され、令和6年度は16件の実績で、その内5件が新規の依頼でした。引き続き区役所・地域包括支援センターとの連携を図り、新規利用の受注に努めます。
- ⑧ 以前配付しました家事援助サービスのKY（危険予知）カードにつきまして、最近の事故状況を踏まえ、一部内容を改めた上で就業会員に現在も順次配付しています。また研修等の機会をとらえ、具体例に基づき、傷害・賠償事故の注意喚起をすることで事故件数の減少に努めました。

（3）職群班活動の充実と人材育成について

職群班活動については、仕事別グループの組織化を推進するとともに、職群班会議や研修等を開催し、会員の技能のレベルアップを図り、サービスの質的向上を目指しました。

（4）暮らしのサポート隊事業の推進

- ① 暮らしのサポート隊会員の清掃作業の技能向上を目的とし、新たに就業を希望した会員に作業現場での実践的な研修を実施しました。ベテラン会員と同行し、作業の準備・進め方・注意点等を実際に体験することによる意識・技能の向上を図りました。また、東京しごと財団主催の研修等への参加も積極的に促しました。
- ② 会員の安全就業を目的に、就業にあたり注意すべき確認事項を記した「一人KYカード（就業前/就業中）」の新規会員への配付及び一人KYカードの活用を促すことで安全就業への意識向上を図りました。また、就業会員の危険リスクを考慮し、昨年度、見直しました受注時の安全基準を引き続き適用しています。
- ③ 新人会員の定着促進のための働きかけとして、チラシの配布作業を提供しました。配布することで暮らしのサポート隊の就業開拓となり、就業に結びつくことも期待してお願いしました。

（5）自主事業の拡充

自転車リサイクル事業は中野駅周辺の再開発に伴い、一時は事業の継続が危ぶまれま

したが、区の協力により旧沼袋小学校で安定的に事業を推進することができました。

各種講座については、年齢的理由による講師会員の退任により閉講する講座もありましたが、一方では新たな講師会員により再開する講座もありました。

パソコン教室については、ワードやエクセル講座への需要は時代の流れとともに、年々、減少傾向にあります。そのため、スマホを対象とした講座を拡充することにより、受講生の獲得に努めました。

(6) 事務系職種の仕事拡充

会員の希望、保有する資格・能力・技術等を踏まえた上で、公共施設の管理や事務系職種の開拓に努めました。事務系の就業拡大は厳しい分野ではありますが、機会を逃すことなく、シルバー派遣による就業も含め、引き続き公共施設の受付業務などの事務系職種を受注できるよう努めます。

(7) 就業機会の提供

① 令和 6 年度の就業機会提供結果

【請負事業】

年 度	年度末 会員数	就業実人員	就業率	受託件数	就業延日数	契約金額
令和 6 年度	1,431 人	1,051 人	73.4%	11, 029 件	137, 715 日	702, 946, 805 円
令和 5 年度	1,445 人	1,059 人	73.3%	11, 702 件	141, 478 日	668, 433, 103 円
増・減(Δ)	Δ14 人	Δ8 人	0.1%	Δ673 件	Δ3,763 日	34, 513, 702 円

【シルバー派遣事業】

年 度	年度末 派遣登録会員数	就業実人員	就業率	受注件数	就業延日数	契約金額
令和 6 年度	148 人	100 人	67.6%	59 件	7, 801 日	38, 497, 432 円
令和 5 年度	125 人	94 人	75.2%	54 件	7, 027 日	35, 367, 196 円
増・減(Δ)	23 人	6 人	Δ7.6%	5 件	774 日	3, 130, 236 円

② 自主事業の実施状況

会員の知識や能力を生かすための自主事業を積極的に実施しました。

ア. 自転車リサイクル事業については、中野駅周辺の再開発に伴い令和 5 年 9 月から旧沼袋小学校に販売会場を変更して再開しました。令和 6 年度の販売実績は、材料費の高騰やリサイクルの材料となる自転車の確保が困難な状況ではありましたが、228 台（昨年度比 48 台増）販売することができました。

イ. 各種教室（講座）事業

生徒数の多かった英会話教室のクラスが、講師会員退任のため閉講となったため自主事業の実績にも影響がありました。一方では、講師会員がおらず休講していた北部分室での暮らしの書道教室が、令和 7 年度から再開できることになり、実績回復に向け明るい兆しとなりました。

パソコン教室はスマホ講座を拡充するなど、受講生の獲得に努めましたが、結果として昨年度との比較で 127 万余円の減少となりました。

ウ．自主事業全体としましては、9,795,170 円の実績をあげることができましたが、昨年度比で 965,857 円（9.0％）の減少となりました。

講 座 名	対 象	会 場	受講者数
学習教室	小・中学生 (小学生 3～6 年生/中学生 1～3 年生)	南部・北部分室	10 人
暮らしの書道	社会人	南部・北部分室	8 人
英会話教室	社会人	南部・北部分室	50 人
万葉集講座	社会人	北部分室	21 人
パソコン・スマホ教室	社会人	南部・北部・江古田分室	340 人

4 就業相談と各種研修の充実〔定款第 4 条 2 号及び 4 号事業〕

(1) 就業相談の充実

事務局内において、来所者（会員及び区民）に対し就業相談を随時実施しました。また、会員懇談会の際にも就業相談を適宜実施しました。

(2) 新規会員の登録と研修の充実

- ① 入会登録説明会の 1 回あたりの参加人数を感染症が蔓延していた時期は 8 名としていましたが、令和 6 年度は 13 名に設定し開催しました。説明会への参加希望者が定員を超えた場合には、入会希望者の気持ちからセンターから離れぬよう説明会の回数を増やして対応しました。
- ② 会員の入会登録時に、センター事業の特色や仕事内容、シルバー事業がサービス業であることを前提として、就業時の仕事態度や接客マナー、報告書の書き方等の説明を行うとともに、適正就業や地域班活動への参加などに役立つよう、入会相談の充実を図りました。
- ③ 会員の入会登録時及び会員懇談会等の際に、仕事に対する知識とセンター会員としての意識啓発をはじめ、仲間づくりや社会奉仕活動への参加を高めるための導入研修を実施しました。

《新入会員研修》 出席者数 322 人 / 登録者数 202 人

◇月 4 回開催 令和 7 年 1 月

◇月 3 回開催 令和 6 年 4 月、6 月～12 月、令和 7 年 2 月・3 月

◇月 2 回開催 令和 6 年 5 月

※11 月（1 回）弥生区民活動センター 開催

(3) 接客術向上及び各種研修・講習

	内 容	実施回数	参加人数
自主研修・講習	・初心者向けパソコン・スマホ講習会（区民対象）	26 回	135 名
	・植木班技能向上研修	2 回	32 名
	・除草班新人研修	1 回	3 名
	・暮らしのサポート隊研修（窓・網戸・換気扇等）	2 回	7 名
	・暮らしのサポート隊研修（現場実習研修）	34 回	40 名
	・家事援助サービス就業会員必修研修	1 回	57 名
東京しごと財団主催の研修・講習	・生活支援サービス研修（調理）	1 回	2 名
	・生活支援サービス基本研修（第 1 回）	1 回	2 名
	・生活支援サービス基本研修（第 3 回）	1 回	5 名
	・生活支援サービス基本研修（第 4 回）	1 回	2 名
	・生活支援サービス基本研修（第 5 回）	1 回	2 名
	・家事援助サービス基本研修（第 1 回）	1 回	2 名
	・家事援助サービス基本研修（第 2 回）	1 回	4 名
	・ハウスクリーニングⅠ	1 回	7 名
	・ハウスクリーニングⅡ（第 2 回）	1 回	4 名
	・ハウスクリーニングⅢ（第 1 回）	1 回	2 名
	・ハウスクリーニングⅢ（第 2 回）	1 回	2 名
	・ステップアップ接遇Ⅱ（発注者対応）	1 回	1 名
	・保育補助スタッフ業務講習	1 回	5 名
	・植木の基本と応用（剪定）	1 回	2 名
	・襖の張替え	1 回	1 名
	・Smile to smile 講師養成講座（講師として参加）	2 回	10 名
	・安全リーダー研修	1 回	2 名
	・転倒予防講習	1 回	2 名
	・新任監事研修	1 回	2 名
	・新任理事長（会長）研修	1 回	1 名
第 3 ブロック主催の研修・講習	・第 3 ブロック代表理事等会議 「地域活動について」	1 回	2 名
	・第 3 ブロック安全就業研修 「シルバー世代の現状と認知症との関わり方」	1 回	3 名
	・第 3 ブロック役員研修 「情報セキュリティ（スマートフォン）研修」	1 回	8 名
その他の研修・講習	・中野区社会福祉協議会 「介護予防・生活支援サービス担い手養成講座」	10 講座	12 名

(4) 調査研究

- ① 他センターの先進事例等を調査し、優れた事案に関しセンターへの導入等について、理事会で活発に議論・検討することによりセンターの円滑な運営に努めました。
- ② センターの喫緊の課題である会員増強について、一般・区民の方々のセンターに対する認知度を把握するため、令和 6 年 11 月「なかのエコフェア 2024」でセンターのテントに来場された方のうち 393 名の方々にご協力いただきアンケート調査を実施し

ました。245 名（62%）の方が「シルバー人材センターを知っている」とお答えになりました。また、「どのようにしてセンターをお知りになりましたか？」の質問に対して回答者 255 名のうち「なかの区報などで見たことがある」と 140 名（55%）の方が回答され、改めて区報の広告効果を確認することができました。

5 適正就業の取組み〔定款第 4 条 4 号及び 5 号事業〕

法令を遵守した適正就業対策の強化を目指し、これまでの自主点検や東京しごと財団の指導等を踏まえ、請負契約内容の確認・調査、契約書や仕様書の整備等を行うなど、適正就業の改善に取り組みました。

センターとしては、会員へ 1 件でも多くの就業機会を提供できるよう、お客様へ適正就業の趣旨を十分に説明し、請負契約が成立するよう努めました。

また、シルバー派遣事業についても法令遵守及び適正就業を念頭において事業を推進しました。

6 シルバー派遣事業の着実な推進に向けて〔定款第 4 条 1 号及び 5 号事業〕

シルバー派遣事業は、高齢者である会員の皆さんの知識や経験等をさらに生かし、請負というこれまでの会員就業の枠組みに加え、多様な就業機会を提供するための事業です。

令和 7 年 3 月末の時点では、東京 58 センターのうち 53 センターにおいて、派遣事業の実施もしくは派遣事業所が開設されています。平成 29 年 4 月 1 日に、派遣事業所（東京しごと財団中野派遣事業所）を開設した当センターの派遣事業は 8 年目を迎えました。令和 6 年度の派遣実績である年間の契約件数は、保育補助業務 22 件、スーパーでのレジや品出し業務 2 件、調理補助業務 2 件に加え、約 2 か月間で 10 名の会員が就業した単発派遣契約のシルバーパス書類受付業務 1 件を含む合計 27 件で、就業実人員 100 名、契約金額は 38,497,432 円となり昨年度比で 8.9%増でした。

派遣業務の就業には期限が 5 年までというルールがあります。5 年満了した場合には一度、派遣就業は終了となり、6 カ月間お休みした後、派遣就業を再開することがルール上は可能となります。ただし、就業を再開できるか否かは、その時の受注状況によります。昨年度は 9 名、令和 6 年度は 4 名の会員が 5 年ルールにより就業期限満了となりました。

また、派遣就業者数が常時 50 名以上の事業所に義務付けられている衛生委員会を月一回の頻度で 12 回開催しました。この委員会では、衛生管理者及び産業医の出席を必須要件とし、派遣就業における衛生面や安全面の課題等について検討・調整し、会員の就業が適正に遂行されるよう取り組みました。

令和 7 年 1 月には「派遣就業会員懇談会」を 13 名が参加のもと開催しました。参加会員からの意見や情報により、保育園での就業における課題が浮き彫りとなり、直ちに保育園等に書面にて通知することで課題改善を図るとともに適正就業に努めました。

令和 6 年度の派遣事業も保育補助業務を中心に事業展開してきたセンターでしたが、東京しごと財団が就業開拓を目的に営業業務を委託した民間事業者の協力により、トライアル就業（お試し就業）という形態でしたが、今までにない新たな職種にもチャレンジすることができました。

今後も会員の就業機会を確保すべく、適正就業を念頭に置きつつ就業開拓に努めてまいります。

7 安全就業対策等の推進〔定款第4条4号及び5号事業〕

高齢者の就業において「安全は全てに優先」します。安全就業対策の取り組みとその実践は極めて重要です。

安全管理委員会では、数年来継続して安全パトロールの回数を増やし、さまざまな職群から委嘱された委員の多様な視点から就業現場を確認するとともに、「KY（危険予知）」による事故防止のため、「一人KYカード」の普及啓発に努め、全ての職群について作成が完了したことを受け、その具体的な活用に取り組みました。

しかしながら事故件数は昨年度の11件（傷害事故8件、賠償事故3件）から19件（傷害事故14件、賠償事故5件）へと増加してしまいました。傷害事故では依然として転倒、交通事故が多数を占め、その対策が最重要課題となっています。

また、事故防止対策と同時に、会員の健康管理や体調管理が非常に重要であることも、改めて痛感することとなりました。

あわせて、新型コロナウイルス感染症の流行以来、高齢者の団体として感染症対策の注意喚起を行うとともに、事務局が感染源とならないよう、受付の飛沫防止シートや職員の座席間のアクリル板、本部及び各分室への手指消毒液の設置等の対策を引き続き行うなど、会員の健康管理についての取り組みと会員の意識の向上に努めました。

（1）安全就業の徹底

- ① 新入会員へ「安全就業の心得」及び「会員の安全就業基準」を配付、また、「シルバーなかの」「シルバー速報」の各号に安全に関する記事を掲載し安全への意識を高めることに努めました。
- ② 安全管理委員会は昨年度と同様年5回開催し、安全就業パトロールも年8回実施して、安全管理委員による就業現場の確認と現場での会員の安全意識の向上、一人KYカードの活用状況の調査や普及啓発に継続的に取り組みました。
- ③ 地域班・職群班会議等において、事故発生状況などをできるだけ詳細に説明し、事故に関する情報共有のもと安全意識の喚起に努めました。

（2）事故防止対策

- ① 安全保護具（ヘルメットや安全ベルト）の着用徹底を図りました。
- ② 熱中症対策として、機関誌等を通じ炎天下や非常に暑い場所での長時間作業を避けることや、水分を十分に補給するなど、注意喚起に努めました。

また熱中症対策への会員一人ひとりの意識向上と情報の周知、注意喚起の目的で、首元を冷やすクールネックを800枚購入し、区報配布・通学路児童見守り・植木・除草・公園清掃・自転車整理などの屋外作業中心の職群はもとより、それ以外の職群でも希望者に配付するなど、センター全体で熱中症対策に取り組みました。

- ③ 作業用の道具や器具等の安全点検を実施し、事故の未然防止に努めました。

事故の未然防止対策としてのKYを、シルバー人材センターでの就業に合わせて具体的に実践する方法として、数年来取り組んできた「一人KYカード」の作成が、昨年度全ての職群で完了したことを受け、今年度は安全就業パトロールの際に実際に活用

されているかどうかを確認し、また通学路児童見守り業務では事故の事例等を踏まえたカードの内容の改訂を行うなど、より具体的で実践的な運用に努めました。

(3) 健康管理

- ① 生活習慣病健康診断の受診を推奨しました。
- ② 会員自身の健康・体調管理につきましては、一人ひとりが注意し、異変を感じた際は無理をせずに早期に医療機関を受診することや、就業については早めに事務局や同じ仕事のメンバーに相談するなどの情報を、機関誌等を通じて周知することで、会員の健康管理についてより一層の意識向上に努めました。
- ③ 熱中症対策や虫さされ（蜂・茶毒蛾など）など、季節に応じた安全対策・健康管理について、各種会議や機関誌等により周知しました。

8 地域班活動について〔定款第4条3号及び5号事業〕

センターは「自主・自立」「共働・共助」の基本理念に基づき、会員自らが自主的・主体的な組織運営を行い、会員同士が助け合う共働・共助を特徴とする団体です。

また、センター事業が地域社会に理解・評価され、具体的な形で地域社会に貢献することは、センターの発展のために不可欠なことです。そのため、居住単位での地域班によるクリーンキャンペーンや、道路清掃等の社会貢献活動が地域社会の理解を得る上で効果的であり、地域班の会員一人ひとりが地域班活動の意義を理解し、継続的に実践することが重要です。

令和6年度は、下記の地域班活動が実施されました。

	地域班	内容
令和6年4月	南部ブロック	「転ばない体づくり」研修
令和6年5月・11月	全14班	クリーンキャンペーン
令和6年6月・11月	全14班	地域班会員懇談会
令和6年12月	南部ブロック	「日帰りバス旅行」（東京ドイツ村）
令和7年3月	南部ブロック	「落合水再生センター」見学
令和7年3月	北部ブロック	「東京都庁・平和祈念展示資料館」見学

9 ボランティア活動状況〔定款第4条3号事業〕

内 容	実施回数	参加人数
・クリーンキャンペーン（駅周辺等の清掃）	1回(5月)	84名
*令和6年5月は区役所新庁舎周辺の清掃	1回(11月)	94名
・区民サービス「初心者向けパソコン・スマホ教室」	26回	78名
・区内公園等の花壇造り及び維持・管理（上鷲宮班）	毎週1回	4名程度
・「東京マラソンランナー応援イベント2025」会場ボランティア	1回	9名

IV 公益社団法人として

センターは、社会参加の意欲ある健康な60歳以上の高齢者に対し、地域社会と連携を保ちながら知識及び経験等に応じた就業機会を確保し、高齢者の能力を生かした活力ある地域社会づくりに寄与することを目的としています。身近な地域での就業を通じ、高齢者の社会参加の場を提供するセンターの取組みが公益社団法人として認定されたものです。

令和 6 年度は公益社団法人として 14 年目の運営となりました。ここ数年、会員数が伸び悩んでいるセンター運営にとって、昨年度に引き続き厳しい状況ではありました。

ただ、継続的に実施しているバスラッピング広告や新聞折込み広告による P R 効果もあり、令和 6 年度末会員数は昨年度を下回ったものの、大幅な減少とまではいかず、何とか踏みとどまることができました。令和 7 年度も一人でも多くの区民に入会していただけるよう、諦めることなく前向きに取り組んでまいります。

今後も会員増強を喫緊の課題としながらも、同時に就業開拓にも注力しつつ、お客様や会員の様々なニーズ等に応えられるよう努めてまいります。

事業報告の附属明細書

令和 6 年度 事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書の「事業報告の内容を補足する重要な事項」はありません。

公益社団法人 中野区シルバー人材センター
会 長 岩 本 昌 夫